

# 薬局ニュース B 型肝炎ワクチン

今年 10 月から B 型肝炎ワクチンが定期接種化されることが決まりました。そこで、今回は B 型肝炎ワクチンについてお話しします。



## B 型肝炎

B 型肝炎は B 型肝炎ウイルス (HBV) に感染することで起こる肝臓の病気で、急性肝炎と慢性肝炎があります。

急性肝炎は、まれに急激に肝臓の細胞が破壊される劇症肝炎を発症し、意識障害を起こして、いのちに関わることがあります。

慢性肝炎は自覚症状がほとんどないため、健康診断などの血液検査で発見されるケースが多く、肝硬変や肝がんに進行する危険性があります。

## 感染経路

HBV は、ウイルスを含む血液や体液が体内に入ることで感染します。感染のしかたには「垂直感染 (母子感染)」と「水平感染」があります。

垂直感染は、HBV に感染しているお母さんから赤ちゃんが生まれるときに、主に産道でお母さんの血液にふれることにより起こる感染です。日本においては 1986 年以降、母子感染予防対策が行われるようになり、妊婦の HBV 検査 (血液検査) や、HBV 陽性の母親から生まれる赤ちゃんへのワクチン接種などの対策により、現在では母子感染はほとんどなくなりました。



水平感染は、HBV を含んだ血液や体液が傷などから体内に入ることによる感染です。子どもへの感染は、過去には、保育園の園児、先生達の間で集団感染が起きた

こともありますが、最近では父親や祖父母など家族内からの感染も報告されています。一方、大人への HBV の感染は、HBV に感染したパートナーとの性交渉の際に起こることが一般的です。しかも、自分自身の感染を知らず、気づかないうちに感染を拡大しているケースも見られます。この他、十分に消毒していない器具を使ったピアスの穴開け、カミソリや歯ブラシの共用、入れ墨、麻薬・覚醒剤使用時の注射器の回しうちなど、HBV 感染者の血液が付着したままで次の人が使用すると感染の可能性があります。

### 接種スケジュール

B 型肝炎ワクチンは、免疫獲得に必要な成分のみを使ってつくられた不活化ワクチンです。日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールは、生後 2 か月に 1 回目、3 か月に 2 回目、1 回目から 20～24 週を経過した後に 3 回目の合計 3 回となっています。対象となるのは、2016 年 4 月 1 日以降に出生した 0 歳児となります。



なお、お母さんが HBV キャリア(保菌者)の場合には、赤ちゃんの B 型肝炎ワクチンの接種スケジュールは異なります。1 回目を出生直後(12 時間以内)に、抗 HBs ヒト免疫グロブリンと同時接種し、その 1 か月後に 2 回目、1 回目から 6 か月後に 3 回目を接種します。

当院でも B 型肝炎ワクチンの接種を行っています。予約制となっておりますので、接種希望の方は病院受付までお問い合わせください。



平成 28 年 9 月 国保依田窪病院薬剤科